

林小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①学習意欲の向上と「自ら考える力」「関わる力」「やり抜く力」の育成
- ②基礎基本の定着と活用する力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|---------|----------|-------------|
| ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようと、漢字や計算練習を繰り返し取り組むことができる児童が多い。 ●既習内容が定着していない児童がおり、学習内容の定着を図ることが課題である。 漢字を文の中で正しく使ったり、計算の意味を理解したりする力が乏しい。 | ①正しく漢字を書いたり使ったり、速く計算したりするなど学習を支える基礎的・基本的な知識技能を身に付けている。 ②語彙を増やし文章を読み取ったり既習の言葉を使って文章を書いたりすることができる。 | ①-1 週一回は「漢字ミニテスト」や「計算にチャレンジ」を実施したり補充プリントを活用したりして、復習する機会を増やす。 ①-2 日記や作文等、生活の中で漢字を積極的に活用し推敲していくことで既習漢字の定着を図る。 ②-1 文章の内容を読み取る力の育成を図るために、朝の活動で本や子ども新聞等を活用し、文章問題に取り組む時間を設ける。 ②-2 読み聞かせや視写、群読などの活動を通して、用例や類似表現を知ったり国語辞典を効果的に活用したりして、言葉への理解を深める。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---------------------------------------|--|---------|----------|-------------|
| ○ペアやグループでの話し合いでは、自分の考えを伝えることができるようになってきている。 ●自分の思いや考えを根拠を明らかにしてまとめ、伝えたり書いたりすることに苦手意識を持っていたり、話し合いの方法が分かっていない児童が多い。 | ①自分の意見や考えを根拠を明らかにして話したり、書いたりすることができる。 | ①-1 授業のめあてを明確にし、児童自らが課題解決の方法を学年の発達段階に合わせて効果的に活用し、伝え合う場を設定する。 ①-2 説明の仕方や話し方を提示したり考え方を図式化したりして活発な話し合い活動をすすめる。 ①-3 日記や原稿用紙を用いた作文指導の充実等、自分の思いを書く時間を十分確保し、系統的にすすめる。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---------|----------|-------------|
| ○授業では、真面目に取り組む、与えられた課題には一生懸命取り組む。 ●自らの課題を見つけて工夫して解決しようとしたり、粘り強く取り組もうとしたりする意欲が乏しい。自尊感情が低い。 | ①学ぶ楽しさや喜びを感じ、学習に前向きに取り組むことができる。 ②自ら進んで自主学習や課題に意欲的に取り組むとともに、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることができる。 | ①-1 個別に応じた課題学習や児童主体の授業を効果的に取り入れ、成果物を保護者に評価してもらい、自己肯定感を高めていく。 ①-2 学級での学びや児童の活動の様子を学級便りで発信する。 ②-1 「校内自主勉強コンテスト」「漢字検定」を実施し、自ら目標をもって学習に取り組むことができるようにする。 ②-2 異年齢交流(ペア読書・学習成果の発 | | | |

表等)を積極的に実施し、表現活動の機会を増やすことで、コミュニケーション力の育成をすすめる。

令和6年度 学力向上ロードマップ

